

楽しい場、より良い自分に変われる場であってほしい

ガールスカウト宮崎第14団リーダー

おおでらおとし すずか

大平落 鈴香 さん (48 歳)

体験活動や奉仕活動などを通じて女性が社会で自分らしく生きていくための力を育むガールスカウト。市内を中心に活動する「ガールスカウト宮崎第14団」では、小学1年生から高校3年生までのスカウト（少女会員）18人と、成年会員としてスカウトの活動を支援するリーダー4人が所属している。平成18年の第14団立ち上げからリーダーとして活動に携わっている大平落鈴香さんに話を聞いた。



「ガールスカウトが目指すのは世界の中でしっかりと自立できる女性を育てること」。そう話すのはガールスカウト宮崎第14団のリーダー大平落鈴香さん。ガールスカウトでは、就学前の幼児から高校生までが野外活動やボランティア活動などを通じて、考える力や行動力、コミュニケーション能力などを育んでいる。そんなスカウトたちに寄り添い、主体的な活動を支援するのがリーダーの役割だ。

小学校教諭でもある大平落さんは「学校の授業とは違い、テントの設営やロープワーク、火おこしなど、特に野外活動の知識や技術が必要になるのは、ガールスカウトのリーダーならでは」と話す。また、学校と違い長いスパンで子どもたちの成長を見守るのがリーダーの魅力だと話す大平落さん。

「キャンプの荷造りが去年より上手になっていて、他の団との活動でもリーダーシップが取れるようになってきているなど、ちよつとしたことから成長を感じられるのがいいですね」。

ガールスカウトでは、学年が

上がると県内や全国の団と合同のキャンプや研修も増える。なかには外部との交流が苦手な子もいるが「得意な子は積極的に外へ出してあげたいし、苦手な子は団の中でしっかりと活動できればいい。それぞれにあった活動ができるのがガールスカウトの良さ」だという。

「ガールスカウトが楽しい場であり、より良い自分に変われる場であってほしい。そして大人になったときに、ガールスカウトだったことを誇りに思ってくれたらうれしいです」。

第14団は来年で設立20周年を迎えるが、現在スカウトの人数に対してリーダーが不足しつつあるという。リーダーは、ガールスカウトの経験がなくても、活動や理念に賛同し講習や研修を受けた女性ならば誰でもなることができる。保護者として関わる中でリーダーの資格を取るケースも多いという。

「スカウトはもちろん、リーダーの仲間も増えたらうれしい」と大平落さん。子どもたちと一緒に活動を楽しみながら、成長を見守る仲間を募集中だ。

【一緒に活動するリーダー・スカウトを募集中です】
活動に興味がある方はメール (gs14miyazaki@gmail.com) でお気軽に問い合わせください

「異年齢集団であることが一番の特徴」と大平落さん。年上の子が下の子をリードするなど役割を果たすことで自然にリーダーシップ能力が高まるという

林
小人

こばやしびと
Vol.126

